

出展：野田市（旧関宿町）、境町、五霞町、各神社仏閣等のWEB資料

1. 関宿城埋門

関宿城の三の丸に設置されていた門のひとつで、明治維新後の廃城に伴い民間へ払い下げられ、現在の場所へ移築されました。門の鬼瓦には江戸時代中期から明治維新まで関宿藩主を務めた久世氏の家紋「久世鷹の羽」があらわれています。

平成12年に野田市（旧関宿町）の『有形文化財』に指定されました。

2. 六地藏

東高野を通る道の分岐点にひっそりと、六体のお地藏様が立っています。「路分け地藏」とか「追分け地藏」と呼ばれているもので、赤い胸掛けをしています。また、六地藏の側には道しるべの石碑もあります。

3. 金龍院

金龍院は天正11年(1583年)に関三刹のひとつ、総寧寺の末寺として創設されました。別院には観世音仏が祀られており、安産を願う多くの参拝者が訪れます。また、堂内には33体の仏像が一体となった観音像が祀られており、33箇所参りが一度にできるということで、こちらも参拝者を集めています。

4. 富士浅間神社

富士浅間神社は、千葉県野田市関宿台町に鎮座する神社です。富士山の神霊「木花咲耶姫命」を御祭神として、健康祈願・家内安全・商売繁盛を願う氏子により守り育てられてきました。

5. 福寿院

関宿城の大手門を江戸町地先に定めた時、本寺に「不動三尊」を奉安してあるので関宿城の祈願寺としました。また、別堂「観音堂」に安置してある「十一面観音」と「六体観音」は、城主久世家の祈願仏とされています。

享保13年(1728)に、十七代関宿藩主久世暉之が自ら願主となり、家老富田外記らに命じて御堂を再興しました。

現在の本堂は安政5年(1858)、当時の関宿城主が三軒家鬼門よけ稲荷神社（関宿城の鬼門方向にあったといわれる）の神木を伐採し寺に寄進し、再建したものといわれています。

6. 実相寺

日英上人が応永16年(1409)に創建した日蓮宗の寺院で、境内には第二次大戦終戦時の内閣総理大臣、鈴木貫太郎(1867～1948)の墓があります。また、関宿城内の建物の一部が移築され、客殿として今も使われています。

7. 宗英寺

松平康元が慶長元年(1596)に創建しました。その康元の墓のほか、4代古河公方・足利晴氏(?～1560)の墓や、関宿落としなどの治水事業を行った、関宿藩士の治水家でもあった船橋随庵(1795～1872)の墓があります。山門の葉彫りも数少ない貴重なもので、創建当時のままです。

8. 光岳寺

慶長7年(1602)徳川家康(1542～1616)の異父弟で、初代関宿藩主・松平康元(1552～1603)が、その母於大の方(1528～1602)のために創建した寺院です。

境内の大仏(地藏菩薩)は、於大の方を偲んで康元が建立したものです。

9. 鈴木貫太郎記念館

野田市鈴木貫太郎記念館は、終戦時の内閣総理大臣として日本を終戦に導いた鈴木貫太郎の業績を広く紹介するため、財団法人鈴木貫太郎記念会により昭和38(1963)年に旧宅の隣に開館しました。その後は関宿町に移管され、現在は野田市が管理しています。

10. 昌福寺

天長5年(829)に創建されました。もとは水海村(茨城県総和町)にありましたが、築田氏が関宿城を築いたときに関宿に移されました。文化15年(1818)に建てられた不動堂の周囲の木彫は一見の価値があります。

11. 随庵堀

船橋随庵(ふなばしずいあん)は、1795年(寛政7)に関宿藩士・船橋周能の次男として関宿に生まれます。1848年(嘉永元)には関宿藩中老となり、その年の10月から、関宿江戸町から荻打までの約20キロメートルに及ぶ「関宿落堀」の治水工事を始めます。

その基礎は、若いころに治水工事を伊奈家の関東流と井沢為永の紀州流から学んだもので、1850年(嘉永3)に工事は完成しました。

本来、関宿落堀は洪水などで関宿城内に溜まった水を城外へ逃がすための排水路だったようですが、随庵の治水工事により、水害から村々を守るとともに、利用できなかった土地を米や作物が生産できるようにする一方で、農民に対して新しい土地の配分も行いました。

また、随庵はペリーが来航して以来、開国論や攘夷論が高まる中で、各地で起こった農兵論を提唱した一人でした。明治政府は、随庵の才能を惜しみ、新政府に参画させようとしたましたが、老齢のため固辞したといい、1872年(明治5)78歳で亡くなりました。